

(別添)

独立行政法人日本原子力研究開発機構理事の選任について

1. 選任結果

(1) 理事（個別業務管理担当ポスト1）

1) 選任者 片山 正一郎（再任）

2) 選任理由

本法人の使命は、日本で唯一の原子力の総合的研究開発機関として、原子力の研究、開発及び利用の促進に寄与することにある。

そうした組織にあって、本ポストは、総務、監査、法務、安全統括、広報など、原子力機構の主要な業務を幅広く担当し、安全確保の徹底、社会からの信頼関係の構築など原子力機構の業務を行う上で極めて重要な職務を担うものであり、高い倫理観のもと、的確な方針と実行力を備えた人材が求められる。

本件公募に対して、16人の応募があり、選考委員会による書類審査で3人に絞られた候補者について、選考委員会が面接を行った上で、適任者との評価を得た1人を理事長に提示し、これに基づき、文部科学大臣との協議を経た上で、理事長が片山 正一郎氏を選任したところである。

片山 正一郎氏は、国民のために業務を遂行するという固い意思及び理事に求められる高い倫理観と並々ならぬ熱意を有し、原子力分野に対する幅広い経験に基づき的確な問題意識と対応戦略を持つとともに、基本方針の第一に掲げる「安全確保の徹底」を総括する理事に求められる豊富な経験と的確な方針を有している。さらに、業務遂行に当って極めて大切な社会の信頼を得ていく上での最前線たる総務、広報、法務関係等についても深い理解と信念を有している。

同氏は、法人の業務運営方針を理解し、適切に業務を推進し、さらに改革を押し進める能力を有している。文部科学大臣及び理事長もそうした能力と熱意に大いに期待しているところである。

(2) 理事（個別業務管理担当ポスト2）

1) 選任者 三代 真彰（再任）

2) 選任理由

本法人の使命は、日本で唯一の原子力の総合的研究開発機関として、原子力の研究、開発及び利用の促進に寄与することにある。

そうした組織にあつて、本ポストは、埋設事業推進、バックエンド推進などの重要な業務を担当し、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に係る研究開発や埋設事業の推進という極めて重要な職務を担うものであり、豊富な知識、実行力及び卓越した調整・渉外の能力を備えた人材が求められる。

本件公募に対して、16人の応募があり、選考委員会による書類審査で3人に絞られた候補者について、選考委員会が面接を行った上で、適任者との評価を得た1人を理事長に提示し、これに基づき、文部科学大臣との協議を経た上で、理事長が三代 真彰氏を選任したところである。

三代 真彰氏は、理事に求められる高い知見、熱意、責任感に満ちておりリーダーシップも十分に備わり、担当業務に関する知見も深く、現状や課題を的確に把握しその対応方針が具体的かつ実践的である。また、担当業務の中でも相当困難な業務であるバックエンド関連業務や埋設事業の推進業務においては、国際的交渉を担う経験を持つなど本業務を統括するに足りる豊富な経験、調整能力を有しており、バックエンド関連業務や埋設事業の推進業務という原子力事業が抱える極めて難易度の高い課題に対し、優れた知見と実行力により適切に事業を推進する能力を有している。文部科学大臣及び理事長もそうした能力と熱意に大いに期待しているところである。

2. 選考委員会

選考委員会のメンバーの属性は以下のとおり。

・会社役員	2名
・大学教授	2名
・弁護士	1名
計	5名